

2019年度 学校評価報告書

2019年4月1日から
2020年3月31日まで

学校法人コリア国際学園

2019年度、コリア国際学園（KIS）は学校創立以来の建学の精神である「越境人の育成」、および、教育理念「多文化共生、人権と平和、自由と創造」を教育活動で実現すべく、教育活動の改革に取り組んだ。

日本人、韓国人、在日コリアン、中国人、アメリカ人など、多様な生徒と教職員が共生を目指す多文化社会を実現するために、全体で共有できるルールを明文化し、日本語、韓国語、中国語の3言語で公開するとともに、KISの価値観と実践原則を明確化、それらが常に見直される環境の実現に取り組んだ。

KISの価値観 「人・多様性・学びの尊重」

KISの実践原則 「自由と責任」

文化的背景や価値観が違う人々が共存する多文化社会では全員が共有できるルールは最小限に留める必要があり、明文化されていない問題に関してはKISの価値観に沿って解決を図るようにした。また、年に2回開催する生徒、教職員、保護者、理事、地域住民、教育専門家からなる教育評価諮問会議において、学校の状況や構成員の変化に応じて柔軟に変化できる環境を整えた。

以上のような方針に従い、全ての教育活動の改革に取り組んだ。

1. 重点的な課題

- ① KISの教育活動の充実
- ② IB教育の推進
- ③ 英語力の強化
- ④ 中等部学生の基礎学力の定着
- ⑤ 「自立」と「自律」
- ⑥ 生徒募集
- ⑦ 財政基盤の確立
- ⑧ 教育活動のICT化

2019年度の特徴的な教育活動について校務分掌ごとに整理し、以下にその概要を報告する。

2. 教務部

授業及び教育活動のICT化を図るべく、全校生がノートパソコンまたはタブレットを活用する様にした。生徒、保護者、教職員全員に学校ドメインのメールアドレスを配布し、G Suite for Educationを利用した授業の質の向上、教育活動の効率化に取り組んだ。

授業の質の向上のために、定期的な教育研究と授業相互参観を実施した。

生徒の「考える力」を育成するために、独自のフレームノート「KIS ノート」を開発し、中等部 1 年から高等部 1 年までで使用し、高等部 2 年以降は各自が学び方を考えるようにした。

国際バカロレア (IB) 教育 2 年目を迎え、初めての最終試験を迎えた。残念ながら履修者二人はフルディプロマを取得することはできなかったが、コリア語で 7 点満点中 6 点を獲得するなど、言語科目では全科目で合格点を取ることができた。

3. 学生支援部

生徒の自主的な自治活動としてクラス活動と学生会 (生徒会) 活動を位置づけ、活発な活動を行うことができた。全校生がなんらかの委員会に所属し、学校の中での役割を担うようにした。今年度は新しく学校内に売店をオープンさせた。売店を設置してほしいという生徒たちの要望に応え、学生会で企画し、希望者で運営委員を募ってオープンさせた。仕入れから、販売まですべてを生徒たちで行っている。クラスの問題点はクラスで、それを学生会で集約し、全校生集会で決定するというプロセスを経ることで、生徒主体の自治活動を機能させるようにした。

恒例行事である文化祭、運動会は学生会主体で企画し、生徒、保護者だけでなく、地域の人たちからも好評を得た。特に文化祭は初めて屋外で実施し、多数の地域住民の来場を得た。

個性と多様性を尊重する KIS の教育理念に沿って、服装や髪型などの外見に関する規定を試験的に撤廃し、自由な服装で登校する様にした。現在も試験実施期間であるが概ね理解を得ており、それが生徒間、生徒教職員間の相互尊重につながっている。

4. 進路指導部

人生や職業について考えるキャリア教育と主に高学年生徒を対象として進学指導を実施した。

中 3 から高 1 までの生徒を対象としたキャリア教育を月に 2 回のペースで実施し、将来の職業について考えとともに、自分自身の人生について深く考えるようにした。人生から職業、進学へと続くしっかりとした考えを持った上での進学準備に取り組めるようにした。

高等部 3 年生には生徒の進路希望に応じたきめ細かい進路指導を行い、全生徒を希望する大学に進学させることができた。